

目 次

はじめに v

第1章 英文法のイメージは変わるか 1

- 1.1. 英文法は記憶科目? 1
- 1.2. 英文法の授業の目標を変える 3
- 1.3. 実目的目的, 教育的目的 5
- 1.4. 中高校で「斜めからの学校英文法」 8

第2章 まずは誰でも知っている5文型から 12

- 2.1. 主語について 13
- 2.2. 動詞について 15
- 2.3. 何によって文型が決まるのか? 16
- 2.4. 修飾語の扱い 18
- 2.5. 助動詞の扱い 20

第3章 命令文は5文型の例外か 22

- 3.1. 命令文は動詞の原形で始まる 22
- 3.2. 主語の存在を証明する 23
- 3.3. 命令文の再帰代名詞 25
- 3.4. 命令文の付加疑問文 26

第4章	本当に助動詞は随意的か	29
4.1.	助動詞を含む文, 含まない文	29
4.2.	すべての述語動詞が「助動詞+原形動詞」	32
4.3.	do/does/didの正体は?	35
4.4.	不定詞節にも助動詞が含まれているのか	39
4.5.	相助動詞	44
4.6.	知覚動詞・使役動詞に続く「原形不定詞」にも助動詞があるのか?	46
第5章	「見えない」意味上の主語は見えないだけか?	50
5.1.	「見えない」意味上の主語	52
5.2.	見えない主語は代名詞	53
5.3.	見えない主語の先行詞—最短距離の原則	56
5.4.	主語の位置の不定詞	59
第6章	原則はどのような場合に当てはまり, どのような場合に当てはまらないか	63
6.1.	3用法と意味上の主語	63
6.2.	形容詞的用法の不定詞節	64
6.3.	副詞的用法の不定詞節	71
第7章	動名詞は「詞」ではなく「節」である	74
7.1.	動名詞の主語	75
7.2.	動名詞節の助動詞	76
7.3.	なぜ進行形の動名詞はダメなのか	78
7.4.	完了の have や受動の be などは助動詞か, 動詞か?	83

第8章	動名詞と現在分詞はどう違うのか？	89
8.1.	動名詞および現在分詞と用法の関係	89
8.2.	動名詞と現在分詞の共通性	91
8.3.	動名詞と現在分詞の主語	96
8.4.	主語の格	99
8.5.	分離擁護論を見直す	103
8.6.	その他の～ing形	109
第9章	ちょっと変わった過去分詞	114
9.1.	分詞の形容詞的用法	114
9.2.	相補分布関係の例外	116
9.3.	2種類の自動詞	120
9.4.	ナル動詞の主語の位置	123
9.5.	ナル動詞の過去分詞，現在分詞による修飾	127
第10章	不定詞に共通した意味があるのか	129
10.1.	S+V+to不定詞	129
10.2.	不定詞の「時」	130
10.3.	不定詞の意味	132
10.4.	2種類の不定詞の文法的相違—繰り上げ動詞と制御動詞	135
10.5.	S+V+O+to不定詞	140
10.6.	「S+V+O+to不定詞」にも繰り上げ動詞と制御動詞がある	144
10.7.	to不定詞を取る動詞	149
第11章	動名詞に共通した意味は何か	153
11.1.	動名詞を取る動詞	154
11.2.	動名詞の二つの意味	158
11.3.	動名詞と不定詞の両方を取る動詞	161
11.4.	動名詞と不定詞の比較	167

11.5.	動名詞と不定詞の選択	169
第12章	すべての他動詞が他動詞か	172
12.1.	注意すべき他動詞	172
12.2.	ヲ格を取らない他動詞は受動文にもならない	174
12.3.	まだまだある受動化できない他動詞	177
12.4.	受動化できない他動詞の特徴	179
12.5.	一般的な他動詞の主語と目的語	182
12.6.	受動化できない他動詞は自動詞に似ている	184
12.7.	奇想天外な発想—受動化できない他動詞は自動詞（ナル動詞）だ	187
12.8.	受動化できない他動詞のもう一つのグループ	190
12.9.	おわりに	192
第13章	ことばに学ぶ	194
13.1.	ことばの研究の「斜めの」成果	194
13.2.	言語学者の habit of life	195
13.3.	「例外」はつきもの	196
13.4.	正攻法の行き詰まり	199
13.5.	ことばの精密さに驚かされる	202
13.6.	ことばによる人間科学	203
あとがき		205
参考文献		209
索引		213